

気軽な雰囲気で行う「ミニ間伐研修会」。
地域の指導林家と連携して開催している



直接対話方式を採用したミニ間伐講習会を開催しています。参加した森林所有者からは「身近な場所で森づくりに関する細かい指導が受けられた」、「気軽に参加しやすい

い」と大好評で、早速自己所有林の間伐を実施するなど、間伐推進に大きな波及効果が見られています。

また、グループが目指す農林業複合経営を確立するためには、地域から産出される木材資源の地場消費拡大が大変重要です。このたび会員の一人が「自ら実践する！」とカラマツとトドマツの地域材を使用し住宅を建築することとなり、その機会を活用し地域材活用見学会を開催しました。見学会では一般住民等57名の参加があり、木材の温もりを体感してもらうと同時に、地場消費が地域の山づくりを活性化し、地球温暖化防止や地域産業の活性化にも繋がることについて、理解を深めてもらうことができました。

■会員一人一人が地域のリーダー
昨年創立30周年を迎えました。これまでにグループを退会された諸先輩方は、北海道林業グループ協議会の初代会長をはじめ、市議会議員、指導林家、森林組合の役員など多くの要職に就いています。このことは、グループ活動により地域リーダーとしての能力が培われた結果であり、活動の成果であると考えています。

今後とも会員一人一人が地域のリーダーとしての自覚を持ち、①さらなるグループ活動の活性化と若手会員の加入促進、②高い林業収入を目指した生産コストの低減に必要な技術・知識の習得、③相互理解の醸成を目指した農村部住民と都市住民との交流促進の3点を活動目標に掲げ、地域振興に貢献

会員自ら地域材で住宅建設。地域材を広くPR



できるグループ活動を展開していきたいと考えています。
(北海道空知森づくりセンター 普及課主査(人材育成)小南雅彦)



「地域の森づくりを仲間とともに！」をスローガンにグループ活動を展開

WE LOVE forest ! 林業研究グループ

北空知森林組合緑友会

北海道深川市

会員数	14名
設立	昭和52年3月

■常に活性化を意識して活動

北空知森林組合緑友会は、昭和52年、当時の森林組合長が今後の地域林業を担う後継者育成をしようと、森林組合員の山好きな仲間呼びかけ「森林組合青年部」(会員25名)として発足しました。しかし、会員の高齢化により退会者が増加したことから、平成11年に現在の名称に変更し若手新会員の加入促進を図り、魅力ある新たな活動を展開してきました。

現在の会員は、稲作農家を中心とした14名で、31〜63歳(平均年齢51歳)と幅広い年齢層で構成されています。会員の所有林は、グループ活動で相互に培った技術・知識の向上から優良林分が多く、農林複合経営の安定化に貢献してきました。

緑友会では、さらなる若手新会員の加入促進を図ることで事業のマンネリ化を打開し、活発なグループ活動を継続するため会員で検討を重ねた結果、次のような活動に重点的に取り組むこととしました。

■地域住民や森林所有者に様々なアプローチ

地域住民と交流を図り森林に親しんでもらうため「野生キノコ学

習会」を、また木材に触れ、木の香りや優しさを知ってもらうため「親子トンカチ広場」を開催しています。いずれも好評で40名を超える参加者となっており、地域住民が森林・林業に理解と親しみをもち、地域の森づくりを応援してくれることに期待を寄せているところです。

一方で、身近な裏山で5〜6人程度の森林所有者を対象に、グループの先輩で地域の模範的な林家である指導林家との連携により、



親子トンカチ広場での巣箱づくり。参加者みんなで記念撮影